

今、注目のピアニストは彼らだ！

【お問合せ】 ジャパン・アーツぴあ **03-5774-3040**

	インゴルフ ヴンダー	ダニール トリフォノフ	アレクサンダー ロマノフスキー	ルーカス ゲニューシャス	ニコライ ホジャイノフ
	 ©Patrick Walter DG 4/17(火) 19:00 紀尾井ホール	 4/23(月)・27(金) 19:00 サントリーホール ※	 5/22(火) 19:00 紀尾井ホール	 ©Zeneka Levin 7/6(金) 19:00 紀尾井ホール	 4/19 武蔵野市民文化会館 4/22 東京交響楽団との共演
出身	クラーゲンフルト(オーストリア)	ニジニ・ノブゴロド(ロシア)	ウクライナ	モスクワ(ロシア)	ロシア極東ブラゴベシチェンスク
師事した先生	クラーゲンフルトとリンツの音楽院、ウィーン音楽芸術大学を卒業後、アダム・ハラシェヴィチに師事	グネーシン音楽院でタチアナ・ゼリクマンに学び、現在はクリーヴランド音楽院でセルゲイ・ババヤンに師事。	イモラ音楽院でホロヴィッツの妹の弟子にあたるレオニード・マルガリウスに、ロンドンの王立音楽大学でアレクセイ・エフに師事。	ショパン音楽大学首席卒業。幼少の頃から、祖母で日本にも教え子の多いヴェラ・ゴルノスタエヴァから手ほどきを受ける。	モスクワ音楽院でミハイル・ヴォスクレンスキーに師事。
ここを聴いて！	目にも耳にも鮮やかな超絶技巧。華やかに歌うピアノは音楽の都オーストリア出身の彼ならでは！	美しい音色、独特の世界観を持つピアニズムは、ゲルギエフ、アルゲリッチ等世界のカリスマも注目。	2011年のチャイコフスキー国際コンクールで、クライネフ賞を受賞。詩情豊かで繊細なラフマニノフの演奏は特に注目したいところ。	力強さときめ細かな響き。スケールの大きいシンフォニックな演奏は聴衆を魅了する。	2010年のショパン・コンクールで彗星のごとく登場し、聴衆を沸かせた。ふわふわ金髪カールの“ピアノ天使”
最近の活躍ぶり	ショパン・コンクールの後、名門ドイツ・グラモフォンがいち早く契約。1枚目のショパンCDは評判に。	ウィーン・フィルとの共演、ウィグモア・ホールでのデビューリサイタルなどで大成功。躍進中。	近年特にヨーロッパを中心に、活躍の場が増えている。(近くスカラ・フィルとラフマニノフのパガニーニ変奏曲で共演)	今年3月フランクフルト国際ピアノフォーラム第1位。クレメラータ・バルティカのソリストも務める。	4月のリサイタルは完売！秋にはビクターからCDをリリース予定。
趣味	人類の進化について書かれた本を読むこと。	映画鑑賞	少し日本語を勉強しています。	友人と劇場、映画、カフェに行くこと。	
ニックネーム	インゴルフ(そのまま！)	ダニック	サーシャ	ルキーノ、ルカシク	
スタッフがソツと教える深い話	昨年1月のショパン・コンクール・ガラツアー中、5名の入賞者の中で一番“オトナ”だったヴンダー。コンクールを共に闘った同志達は、結束力も強く、ツアー中は仲良く食事に行くことも多かったが、そんな時の“幹事”も彼。仲間を気遣うあたたかい心は、ファンの心もがちりつかんでいる！	昨年1月、ショパン・コンクール・ガラで来日した時は、まだあどけなさの残る青年だったダニール。チャイコフスキー・コンクールでグランプリを獲得し、9月に来日した時には、大震災の被害を受けた日本を気遣うなど、すっかり大人に。大きなコンクールを勝ちぬく中で培われた精神力が、人をここまで成長させるのか！と感動。	「一番身近で一番厳しい聴衆は、15歳の“ねこ”と語るロマノフスキー。テレビなどで、嫌いな音楽が流れるとプイ！とどこかへ行ってしまうのですが、ピアノを弾いているときは足元で寝そべって、何時間もじっとしているそう。パッパやロシア音楽が好きなのかもしれないね…優しくおっとり話していました。	前回来日時は、コーヒーを飲むのも、冗談を言うのも、弟分のトリフォノフと一緒に。それでいて！「俺がアンコールである曲を弾いたら、注目されるだろう…ごめんな、ダニール。ふふふ。」とつぶやきながらステージに向かっていった！人情深く、ユーモアたっぷり、それでいて空き時間はピアノに向かい続ける真面目なルーカス。	最新情報はジャパン・アーツのホームページとTwitterで！ WEB: www.japanarts.co.jp Twitter: @japan_arts

※チャイコフスキー・コンクール優勝者ガラ・コンサートに出演
6/25(月) パルテノン多摩にてピアノ・リサイタル、6/27(水) 山形交響楽団の公演にもソリストとして出演